

早稲田大学日本語研究教育センター  
CENTER FOR JAPANESE LANGUAGE  
WASEDA UNIVERSITY

第 17 号

2004年7月

日本語センターニュース  
CJL NEWS



# 目次

VOL. 17  
2004  
July

# Contents

1 . 所長のことば	1
中央アジアの日本語教師	日本語研究教育センター 所長 吉岡 英幸
2 . 私と研究	2
「読解」の授業と教材	日本語教育研究科 教授 川本 喬
3 . 修了生のことば	3
私の留学生活	段 訳萌
4 . 課外活動	4
相撲観戦記	
汗、そして、熱情	朴 鎮昊
早慶戦観戦記	
早稲田、早稲田、早稲田	金 異然
歌舞伎鑑賞教室	ピアルシェウスキー , ピアンカ
5 . 各国紹介	7
ウズベキスタンとは	ハキモフ , サイダリ , ツルダリエヴィチ
6 . 人物往来	8
退任 『日本語』そして『日本語センター』がつかないでいく世界の輪	
	松崎 正隆
新任 早稲田で過ごす素敵な時間	佐藤 清彦
新任 スヌーピーが大好きです!	保坂 裕子
7 . お知らせ	10
在校生のみなさんへ	
日本語教育学公開講座のご案内	
別科日本語専修課程2005年度4月生募集	
修了生のみなさんへ	

# 所長のことば



ちゅうおう にほんごきょうし  
中央アジアの日本語教師

日本語研究教育センター

よしおか ひでゆき  
所長 吉岡 英幸

しゅうりょうせい  
修了生のみなさん、おめでとうございます。

みなさんにとってこのいちねんは、どんなとし  
したか。楽しかったこと、寂しかったこと、  
うれしかったこと、悲しかったこと、いろいろ  
なことがあったとおもいます。でも、みなさん  
はそれぞれ日本語が上手になり、早稲田大学

りゅうがく もくてき たっせい  
に留学した目的は達成されたのではないのでしょうか。この一年のいねん けいけん  
経験をこれからの人生に生かしていただきたいとおもいます。

ことし はる わたし ちゅうおう ふた くに い きかい  
今年の春、私は中央アジアの二つの国へ行く機会がありました。はじめに、ウズベキスタ  
ンのタシケントに行きました。タシケントでの日本語教育の中心は、日本センターです。  
日本センターは、タシケントで最も立派なビルの中の一つにあり、きょうしつ としょしつ  
教室や図書室など、立派な設備を持ったセンターで、だいてりょう  
大統領が訪問したばかりだということでした。日本センターで  
は、げんざい にんちか ひと にほんご まな びん  
現在150人近くの方が、日本語を学んでいます。この日本センターの日本語教育は、  
にほん はけん くる にほんごきょうい く せんもんか ちゅうしん おこな  
日本から派遣されて来る日本語教育の専門家が中心に行っています。現在のせんもんか  
せんもんか  
福島先生ですが、ふくしませんせい さくねん わせだいがく だいがくいん にほんごきょういけんきゅうか いんせい  
福島先生は、昨年まで早稲田大学の大学院日本語教育研究科の院生でした。  
ですから、ごうかん まいにち かよ わたし いちねん あ  
22号館のビルに毎日のように通っていました。私も一年ぶりに会ったのですが、  
げんき げんき  
元気ががんばっている様子を見て、たいへんうれ  
大変嬉しく思いました。

みつかかんたいざい あと とりに くに い  
三日間滞在した後、隣の国のカザフスタンのアルマティに行きました。アルマティでは、  
カザフスタン日本語弁論大会やその後のパーティー、日本語教育シンポジウムなどに出席  
したりしました。また、とうち もっと ゆうしゅう がくせい あつ  
当地で最も優秀な学生が集まるといわれているカザフ民族大学を  
ほうもん 訪問して、にほんご じゅぎょう み せんせい が た はな  
日本語の授業を見たり、先生方と話したりしました。このカザフ民族大学にも、  
にほん にほんごきょうい く せんもんか はけん げんざい はけん せんもんか いたばしせんせい  
日本から日本語教育の専門家が派遣されています。現在派遣されている専門家の板橋先生  
は、じつ わせだいがく にほんごきょういけんきゅうか ざいせきちゅう いんせい べんるんたいかい じょういにゅうしやうしや  
実は早稲田大学の日本語教育研究科に在籍中の院生です。弁論大会で上位入賞者のほと  
んどがこのだいがく がくせい がくせい だいがく すすあ がくせい いたばしせんせい  
大学の学生でした。学生たちはみんな明るく、素直ないい学生でした。板橋先生  
は大変人気があって、みんなから信頼されていることがよくわかりました。それを聞いて、  
わたし うれ  
私まで嬉しくなりました。いろいろなくに わせだしゅっしん ひと かつやく  
国で早稲田出身の人たちが活躍しています。そして、  
そうしたようす 見たり き いたりすることは、わたし きょうし  
私たちが教師にとっても、とてもうれ  
嬉しいものです。

みなさんも、わせだ どうそうせい いちいん にほん はな わせだ す いちねん たいせつ  
早稲田の同窓生の一員です。日本を離れても、早稲田で過ごした一年を大切に  
にしてほしいとおもいます。そして、みなさんがご活躍されることを祈っています。

しゅうりょうせい  
修了生のみなさん、どうかお元気で。機会があったらまたお会いしましょう。



## 「読解」の授業と教材

大学院日本語教育研究科

教授 川本 喬

日本で生活していると、外を歩いていけば看板や広告や交通標識などが目に入ってきます。食堂に入ればメニューを読まなければなりません。読むことができるということは、絶対に必要です。

留学生のみなさんは、どんなときに、どんなものを読んでいるのでしょうか。毎日の生活で読むもの（新聞、手紙、電子メール、掲示板など）勉強で読むもの（レポート、論文、参考図書など）趣味で読むもの（随筆、小説など）などがあると思います。こうしたものが速く、正確に、そして、できるだけ楽しく読めるようになるために、「読解」の授業ではどんな教材をどのように使えばいいのかを、今、研究しています。

読解の授業では「精読（せいどく）」と「速読」とがあります。精読というのは、一つひとつの語の意味や文法をこまかく理解し、文の意味、文章の意味を理解する授業です。正確に理解できるようになることを目標とします。一方、速読の授業は、速く読めるようになることを目標とします。そして、速読と精読との両方をすることによって、速く、正確に読めるようになるということが考えられているわけです。

ところで、初級では、読解はだいたい精読です。中級に入っても、まず、精読によって語、文法、漢字などをかなり勉強してからでないと速読の授業はしにくいと考え、精読 - 速読の順序で勉強するのが一般的です。わたしもこの順序には賛成なのですが、しかし、できるだけ早く速読の授業を始める方法はないだろうかとか考え、これが研究の中心のテーマとなっています。この問題は簡単なことのようにも見えるのですが、実は、いろいろな問題を含んでいるのです。ちょっと考えてみてください。語、漢字、文法など、まだあまりたくさんを知らない人がどうやって速く読めるようになるのだろうかとか。

文章の大切な情報を把握し、語、文法、漢字などを学習する。その順序と方法はどうか、予習と復習はいつ、何をどのくらいしてもらえばいいのか、クイズやテストは何をすればいいのかなどなど、たくさん問題があります。

もうひとつ、文章には、それぞれの文章の書き方があり、特徴があります。タイプ別に文章の読み方を考える、これがもうひとつのわたしのテーマです。

話が難しくなりました。簡単にまとめると、いろいろなタイプの文章を、できるだけ早い時期に速読の授業のやり方で読み始める方法はどうかを今、わたしは考えている、ということです。



2003年7月 口頭表現のクラスにて

# 修了生のことば



日光への課外活動にて

わたし りゅうがくせいかつ  
**私の留学生活**  
段 訳萌(中国)  
ダン ,ヤクホウ

2003年9月7日、中国吉林大学と早稲田大学の交換留学生として日本に来た。日本語学部出身の私にとって、たいへん嬉しいことであった。

初めて日本に来た時、両親と友達から離れて、一人暮らすのは、本当に寂しくて、思うより辛かった。料理もできなかつたし、和食に慣れていなかったし、どうしようもないという感じであった。しかし、最初の時期を過ぎて、今から振り返って見ると、この一年間の毎日は豊かだったと思う。

住んでいる寮はお台場にある。部屋から海が見られるし、東京タワーが見られるし、晴れた時には、富士山も見られる。バルコニーに立って、青

い海を見ると、本当に気持ちがいい。涼しい風が吹いて、爽やかになる。

そして、早稲田大学での勉強も充実し、楽しかった。先生方はやさしくて、丁寧に日本語を教えてくれた。事務所の方々もいろいろ助けてくれた。早稲田日本語別科には、世界各国から来た留学生がたくさんいる。外国人留学生はみな一緒に日本語を勉強して、すぐ友達になる。異文化も理解できて、とても楽しかった。勉強だけでなく、日光の旅行や歌舞伎鑑賞教室や餅つきなどの活動によって、日本の伝統的な文化も身をもって体験した。

時間が経つのは本当にはやいものだ。この一年間の留学生活はすぐ終わりになる。日本語だけでなく、いろいろなことが勉強になった。本当に実りがある一年間だ。将来は、チャンスがあれば、きっともう一度日本に戻って、好きな早稲田に戻ると信じている。



秋の日光旅行にて(筆者:後列右端)



2004年春 修了生集合写真 2004年7月1日





## 早慶戦観戦記

わ せ だ わ せ だ わ せ だ  
早稲田、早稲田、早稲田

金 異然(韓国)  
キム、イヨン

早慶戦に行き早稲田大学の校歌を、みんなと一緒に歌いながら感じた心の響きは、どこからくるのだろうか。「喜び」か。「感動」か。説明できない気分だった。

私はただ1年間の交換留学生だけど、日本に溶け込み、皆と同じことを見て考えを共有することができただろうか。この日の思い出は今でも強く残っている。

その日、朝から野球の試合が終わって寮に帰る瞬間まで振り返ると、大変な日だった。

普段は朝寝坊して8時ぐらいに起きる私なのに、その日は6時に起きてちゃんと準備して友達と集合する新宿駅に向かった。馬場駅は早く行くため普段通る道より、近道をしようとしたけれど予想とは反対に、もっと迷ってしまっ、仕方なく新宿まで歩いて行った。

でも二人とも笑いながら“人生はまっすぐ行ったらあまり楽しくない、今のように迷いながら探す幸せの方がもっと大きい”と自分自身を慰めた。汗をかきながら早歩きして新宿駅に着いた。

しかし。。。チケットを持っている友達とは連絡ができなかった。大勢の人の中で友達を見つけることは難しいから。消極的な気分になった。朝から頑張ったのに試合を見ることはできないだろうか。しかたないと思われたけれど、あきらめ切れなかった。あちこち連絡して、幸いなことに他の友達にチケットをもらって入場することができた。

本当に暑くてじっとしていても汗が出て、後から塩になりそうだった。日焼けで肌がひりひりしたけど、座らないで一生懸命応援した。

まず早稲田がポイントをかき、雰囲気も盛り上がった。しかし慶応も手強い相手だった。皆が一つになって頑張ったけど、残念ながら早稲田が負けてしまった。慶応大学に負けてしまって残念な試合だったけど、本当に暑かった日、一生懸命頑張った選手たちに皆が暖かい拍手を送った。盛り上げるため努めたかわいいチアガールと厚い制服をきてあちこち走った応援部も満足していた。勝ったらもっとうれしいことは当然なことだけど、負けても面白かった。

試合が終わった後、勝っても、負けてもお互いに校歌を歌いながら励まし合う様子はなかなかあざやかなプレーだった。学生たちは直接に試合はしなかったけど、第2選手で立派に戦った。

試合が終わって、友だちと簡単にビールを飲んで帰った。体はつらかったけど、皆のいきいきした顔はずっといい思い出に残ると信じる。

日本に留学に来て日本語を勉強することも“もちろん”重要だけど、教室の外で早稲田の学生たちと一緒に何かをする機会こそ「きらきらと光る大切な時間」ではないかと思った。

また機会があったら、色々な経験をしたい。



ビアルシェウスキー，ビアンカ（ドイツ）  
BIALUSCHEWSKI, Bianca

6月12日に歌舞伎を観に行く課外活動があった。100人の別科生は無料でその活動に参加することが出来た。私達は「鳴神」という有名な歌舞伎劇を観た。

私にとって、歌舞伎を観ることは初めてだったので、とても面白かった。以前歌舞伎を観た2、3人の友達には「歌舞伎はつまらない」と言っていたが、それは多分説明が流れるイヤホンガイドを借りなかったからだろう。歌舞伎に行く前に日本人も歌舞伎の言葉があまり分からないと聞いたので、英語のイヤホンガイドを借りることにした。また歌舞伎劇の前に歌舞伎について簡単に紹介する「歌舞伎鑑賞教室」というものがあった。そのためよく分かり面白かった。歌舞伎では全ての役を男性が演じているのだが、女形を演じるときにどのように歩くか、また、歌舞伎での話し方の独特なリズムについて教えてもらって、感心した。

歌舞伎の演じ方は本当に難しいと思う。俳優のメイクアップや舞台衣装などはとてもきれいだ、話し方はわかりにくかった。私の前の日本人もイヤホンガイドを借りていた。イヤホンガイドを借りて、とてもよかったと思う。なぜならば、私は少し日本語が分かるが、歌舞伎は古い日本語を使うので、わかりにくいからである。歌舞伎が終わった後、イヤホンガイドを借りなかった友達には、内容が分からなかった人や眠くなった人もいた。もしイヤホンガイドがなかったら、つまらなかったと思う。

更に、歌舞伎はヨーロッパの芝居に比べると、音楽などが全然違う。だから、今回歌舞伎を観ることが出来てとてもいい経験になった。

歌舞伎は日本の伝統的な芝居なので、この課外活動に参加することが出来て、新たな日本文化の一面に触れることが出来たと思う。これからも、もっとたくさんの体験をしたい。

参加者の一言感想集（歌舞伎の第一印象をOne Word & One Sentenceで書いてもらいました）

今回の歌舞伎鑑賞教室では、市川團十郎家に代々伝わる「歌舞伎十八番」の中でも人気狂言の一つである「鳴神」を観ました。別科生の目に「歌舞伎」はどのように映ったのでしょうか。

「오르골」(オルゴール) 李昌炫(韓国)

古い物とは現代人の心からだんだん遠のくが、歌舞伎は幼い時に聴いたオルゴールのリズムのよう、日本の穏やかな伝統の懐かしい息吹を感じられた。

「жив」(生き生きしている) ニチャヤー(タイ)

歌舞伎は生々と演技されて、いろいろな技能を使い合わせて、とても面白かったです。

「감동」(感動) 金廷奐(韓国)

歌舞伎を通じて学校では体験できない日本の文化を経験しました。

「不錯」楊文江(中国)

花道と回り舞台を案出した人たちは素晴らしいですね。

「伝統」ブラン・シルヴァン(フランス)

「つまらないだろうな」と思ったけど、意外に楽しかった。説明のおかげだろうか。

「芸術」李洪波(中国)

長い時間の流れに洗練された歌舞伎は新しい時代に古い芸術をよみがえらせた。

「Bagus!」(すごい!) タン・ミ・チェン(マレーシア)

歌舞伎はとても楽しくて、面白かったです。



早稲田大学演劇博物館所蔵「鳴神」100-2394, 2393

# 各国紹介

## ウズベキスタンとは

ハキモフ サイダリ ツルダリエヴィチ (ウズベキスタン)  
*KHAKIMOV, Saidali Turdaliyevich*



ウズベキスタンと聞いて、パッと地図を思い浮かべられる人は、かなりの中央アジア通だろう。「日本人は、アフガニスタンかパキスタンの一部かと尋ねる人がほとんど」とウズベキスタン人は嘆き、「一刻も早くウズベクの存在をはっきりと世界に示したい」と胸の内を訴える。

しかし、ウズベキスタンの歴史・現状を知ると、なぜ日本はこの国の情報があまりにも少なく、関係を深めていけないのかと思う。すでに韓国は自動車の合弁生産を行っており、欧米諸国はNew Western (新天地)とも呼び始めているのだ。ウズベキスタンの面積は日本の1.2倍、人口は2,629万人、首都タシケントにはなんと240万人が住み、地下鉄は2本通り、飛行機の生産工場さえある。

また天然資源も豊富で、金の生産は旧ソ連の45%に達し世界5位。綿花も世界4位でアメリカに次ぐ第二の輸出国。さらに石油・天然ガス・食料の自給体制が整っているうえ、鉄鉱石・石炭などの埋蔵も確認されているのだ。

しかし、ウズベキスタンが歴史に名をとどめているのは、かつての中国とローマを結びシルクロードの中心地に位置していたことだ。サマルカンド、ブハラ、ヒワなどの諸都市は、ヨーロッパに近代国家ができるまでの間に、まさにユーラシア大陸の交易の中心地だったのである。このため、紀元前はペルシャ帝国、ギリシャのアレキサンダー大王、紀元後は西突厥、トルコ系遊牧民、8世紀以降はイスラムのサーマン朝、11～13世紀はセルジユクトルコ、そして13世紀は蒙古チングス汗、14世紀以降はウズベク人のチムール帝国、その後には3つの別々の王国があった。19世紀に入るとロシア、革命後は旧ソ連邦に組み入れられるなど、その地政学的な重要性和豊かなオアシス地域であったことから、つねに歴史上の大国の争奪戦場だったわけだ。世界史をよく観察すると紀元後は、15～16世紀頃までは、中国とローマ、イスラムがユーラシア大陸で覇権を競い、その要衝の交通路は、陸がシルクロード、海がインド洋であったことがわかる。

かつては、インドの仏教もこの地を経て中国・日本に伝来したのだ。18世紀の産業革命以降、欧米中心の文化・科学が日本をおおい、かつての中央アジアは旧ソ連に組み込まれてしまったため、この歴史的な要衝の地は、日本人の頭から忘れ去られたが、1991年、ソ連邦の崩壊直後にウズベキスタンは共和国として独立、再び旧シルクロードの遺跡とともに、歴史の舞台上に登場してきたといえる。

いま世界を見渡すと、ヨーロッパ、アメリカ、日本は成熟国となり、今後の潜在成長国はASEAN、中国、インド、旧ソ連邦などで、それらの人口はあわせるとゆうに40億人に達する。そしてその地政学的な中心地がウズベキスタンなどを中心とする中央アジアなのだ。欧米がNew Westernと呼ぶのは、まさに21世紀において、再び戦略的な要衝を占める位置にあるからといえよう。



ブハラ：キャラミナレット



サマルカンド：  
ティリヤカリノドレツセ



タシケント：メトロ



ヒワは18世紀のヒワ・ハン国時代の町並みがそのまま残るところで、町全体が博物館に指定されています。長さ2200mの城壁の中には、宮殿やモスク、モドレツセなどがあります。

情報は下記のウェブページから集めた

<http://www.ne.jp/asahi/hikyo/yamaya/uzbek4.html>

[http://homepage2.nifty.com/silkroad-uzbek/uzbek\\_profile/index2.html](http://homepage2.nifty.com/silkroad-uzbek/uzbek_profile/index2.html)

<http://meta.metro.ru/tashkent/tashkent-metro.jpg>

数字変更はworld development reportのデータによる。



ウズベキスタン全国

# 人物往来

## 退任のことば

## 『日本語』そして『日本語センター』が つないでいく世界の輪

まつざき まさたか  
松崎 正隆



筆者：左から2人目

日本語センターでの9年間の「生活」を終え、6月より14号館3階の大学院社会科学部・社会科学部へと職場が変わりました。異動のごあいさつも兼ねて、在職中の感想めいたものをつづってみたいと思います。

これまで、毎学期ごとに、別科そして研究科の学生のみなさんから、修了という「おめでたい別れ」に立ち会うことで、いっしょにその喜びを感じさせていただいていたのですが、一方で別れという寂しさも感じてきました。それでも、その直後に、それぞれ新入生を迎えるということで、もう一つの喜びを感じることができましたので、「別れ」の寂しさというものをあまり感じなくてすみました。今回は自分の“修了(とみなされるかどうかはわかりませんが……)”ということで、別れだけということになり、少々寂しさが残りました。

この9年間の日本語センターの「生活」で私が得た最大の宝物は、人との出会いです。ざっと数えてみると、この間、日本語センター・研究科にいらした100名余りの先生・助手の方々、そして別科で学んでいった、およそ1,000名の留学生のみなさん、大学院に入学された250余名の院生のみなさんをはじめ、この他にも日本語センターという場を通して、たくさんの「人」と出会い、そして一対一の心の通った交流を行うことで、言葉では言い表せない貴重な「もの」をいただくことができましたと思っています。このような体験ができたのも、先生方をはじめとして、これまで日本語センターに関わってこられた方々みんなが、機械的でなく、温かみをもって相手に接するという伝統を築いてこられ、それに感化されたからだと思感謝しています。

心残りといえば、最近席が事務所の奥の方になってしまい、別科生をはじめ多くの学生のみなさん、そして先生方とも、よもやま話をする機会が減り、そして何よりも記憶力の衰えから、学生のみなさんのことがなかなか覚えられなくなってしまったことです。

日本語センター(そして研究科)は、世代、国・地域、職歴をはじめ、多種多様な方が集まっている上、その一人一人を結びつける役割を果たしている点で、学生にとっても教職員にとっても、すばらしい存在だと思えます。早稲田大学に集う学生のために、このような貴重な場が今後も変わることなく、ますます発展していくことをお祈りいたします。

最後になりますが、先生方・在学生の方は、授業の合間にも、修了生のみなさんは、修了後早稲田にいらした際に、ぜひ14号館にも立ちよりください。よもやま話をしましょう!!



2004年3月 大学院日本語教育研究科 学位授与式にて

## 新任のことは



## 早稲田で過ごす素敵な時間

日本語研究教育センター 事務スタッフ  
佐藤 清彦 (旧所属:理工学部)

22号館からグランド坂をゆっくり上ると、不自然に道が集まる交差点に出た。街の風景は変わる。かつてこの「西早稲田」という交差点には、『MOZZ』という伝説のジャズ喫茶があった。階段を上がった奥にある小さな店だが、何ともいえない味があった。

「風間杜夫さんやタモリさんも常連で、タモリさんは学生時代にお金の無いときには、席に座らずコーヒーも飲まないで、立ちながらジャズを聴いていたのよ...」と当時のママさんが教えてくれた。そのとき、流れていたのはGeorge Adams『Nobody Knows the Trouble I've Seen』。朗々と歌い上げるSaxophoneに、二十歳の僕はすっかりシビれてしまった。

忘れられない場所がある。忘れられない瞬間がある。忘れられない出会いがある...

なーんて、自分も年をとったかな...。いやいや、ご挨拶遅れました。

はじめまして！理工学部事務所から異動してきました佐藤清彦です。（“佐藤”というのは日本でポピュラーな名前ですから、覚えてくださいね。）趣味は音楽鑑賞、映画鑑賞、スポーツ観戦などです。今年はアテネオリンピックがあるので、寝不足になりそう。トホホ。

日本語研究教育センターで、みなさんのお役に立てるようがんばりますので、「佐藤さーん」と気軽に声をかけてください。そして、みなさんも早稲田で、素敵な時間を過ごしてくださいね。

## スヌーピーが大好きです！



日本語研究教育センター 事務スタッフ  
保坂 裕子 (旧所属:国際情報通信研究科)

6月1日付で、国際情報通信研究科（GITS）から異動してきました、スヌーピーが大好きな保坂です。

私のスヌーピー好きはと言いますと、事務所の机を見ただけでお分かりいただけるほどです。我が家には、旅行会社から貰ってきたポスターやパネルが壁に貼ってありますし、勿論食器などもスヌーピーです。どの部屋を見てもスヌーピーグッズが必ずあります。

前職場のGITSは3月末に事務所が埼玉県本庄市に移転したため、2ヶ月間、東京駅から本庄早稲田駅まで新幹線通勤をしましたが、こんな経験は2度と無いと思います。そのまま乗って行けば、新潟県のガーラ湯沢まで行く新幹線ですから、冬のシーズンは混むのかも知れませんが、4月・5月の朝は空いていて一両が貸しきり状態の通勤でした。

GITSも留学生の方が多いところでしたが、日本語センターもかなりの割合を占めているようなので、「私は英語が出来ないのですが、勤まりますか？」とお聞きしたら、「日本語を学びに来ている方達なので、丁寧な日本語をゆっくり話すようにすれば大丈夫ですよ。」と事務長から言われて少し安心しました。

エレベーターの中や玄関などで学生さん達が流暢な日本語で会話しているのを見ると、「成る程なあ」と思いました。

日本語研究教育センターでは、先生方や学生さん達に喜ばれるような仕事をしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 在学中のみなさんへ

### 夏休み中の事務所等開室時間のご案内

夏休み期間中 土日祝日は全て閉室です。

	場所	開室時間	閉室日
日本語研究教育センター事務所	22号館4F	9:00～16:00 12:30～13:30 閉室	8/7～15
ラウンジ	22号館3F	8:00～19:00	8/7～15
コンピュータールーム	22号館1F	24時間	8/7～15
LL自習室	7号館5F	8/23～9/10 10:30～17:30 9/13～9/17 9:00～16:00	7/30～8/22
学生読書室	22号館3F	7/30 10:00～16:00 7/31 9:00～14:00 8/3,5,17,19 12:00～16:00 8/23～9/10 12:00～16:00 9/14,16 12:00～16:00	左記開室時間以外は閉室

## 日本語センターからのお知らせ

### 日本語教育学公開講座 9月(後期)受講生募集中!!

日本語センターでは、これから日本語教育を学んでみようという方々(在校生・一般)を対象に、「日本語教育学公開講座」を開講しています。ここでは「外国語としての日本語」を中心に広く言葉と教育の問題を考えていきます。パンフレットご希望の方は、日本語センター事務所までお問合せください。本講座は1年間の通年講座ですが、後期からの受講も可能です。テーマは1回ないし2回で完結しています。

**授業期間** 後期 9月25日～12月18日の土曜日(11月6日は休講)

**授業時間** 10:00～11:00, 11:15～12:15

**授業料** 早稲田大学在学学生...15,000円 学外者...50,000円

### 別科日本語専修課程2005年度4月入学生募集中

一般公募による別科日本語専修課程2005年度4月入学生を下記のとおり募集中です。

願書・入学案内は、日本語センター事務所(22号館4F)で販売しております。郵送をご希望の方は、住所・氏名・電話番号を記入したメモに「別科願書希望」と明記の上、200円分の郵便定額小為替と切手210円を同封して、日本語センターまでお送りください。ご不明な点は、日本語センターまでお問合せください。

**出願資格** 原則として、下記の条件を満たす者  
4年制大学(日本の大学の学部に対応する課程)に在籍中またはこれを卒業した者。  
日本もしくは日本語に関する研究や教育を志す者、またこれらに従事している者。

**募集人員** 約80名(2005年度9月入学生を含む)

**修業年限** 1年間(2005年4月1日～2006年3月31日)

**出願受付期間** 2004年10月1日～13日

## 修了生のみなさんへ

### 別科2004年度春学期修了生のみなさんへ

去り行く修了生のみなさんへ一抹の寂しさと心からのお祝いの気持ちをこめて、課程修了おめでとうございます！教職員一同心よりお祝い申し上げます。これから先、みなさんがどんな場所でどんなふう活躍なさるのか、私たちはとても楽しみにしています。卒業生のみなさんには、今後もホームページや掲示板を通じて、日本語センターの近況をお知らせしますので、皆さんも世界中で活躍しながら、その様子を手紙やメールで送ってください。写真も大歓迎です。きっと次の卒業生へ向けての力強いメッセージになることでしょう。また、ホームページにもどんどん近況を書き込んでくださいね。

なお、今後皆さんと連絡をとっていくための住所、E-mailアドレス、電話番号など連絡先が変更になった時は、E-mail等でご一報ください。(事務所一同)

#### 修了生と在学生のための掲示板

[http://bbs12.otd.co.jp/1223567/bbs\\_plain](http://bbs12.otd.co.jp/1223567/bbs_plain)    ユーザー名：waseda21    パスワード：cjl1988

### 修了生の図書館利用について

別科の皆さんは、課程修了(終了)後も早稲田大学図書館を利用することができます(閲覧のみ、貸出不可)。図書館へ行く前に日本語センター事務所で手続きをしてください。その際、在籍していた期間、学籍番号が必要です。事務所で作成した書類を持って図書館に行くと、入館カードを発行してくれます。図書館は知の宝庫です。ぜひ有意義に活用してください。

日本語センターニュース 第17号  
2004年7月15日発行

発行

早稲田大学日本語研究教育センター  
CENTER FOR JAPANESE LANGUAGE  
WASEDA UNIVERSITY

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-7-14  
1-7-14, Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050  
TEL : 03-5273-3142 FAX : 03-3203-7672  
E-mail : [cjl@list.waseda.jp](mailto:cjl@list.waseda.jp)  
URL : <http://www.waseda.jp/cjl/>